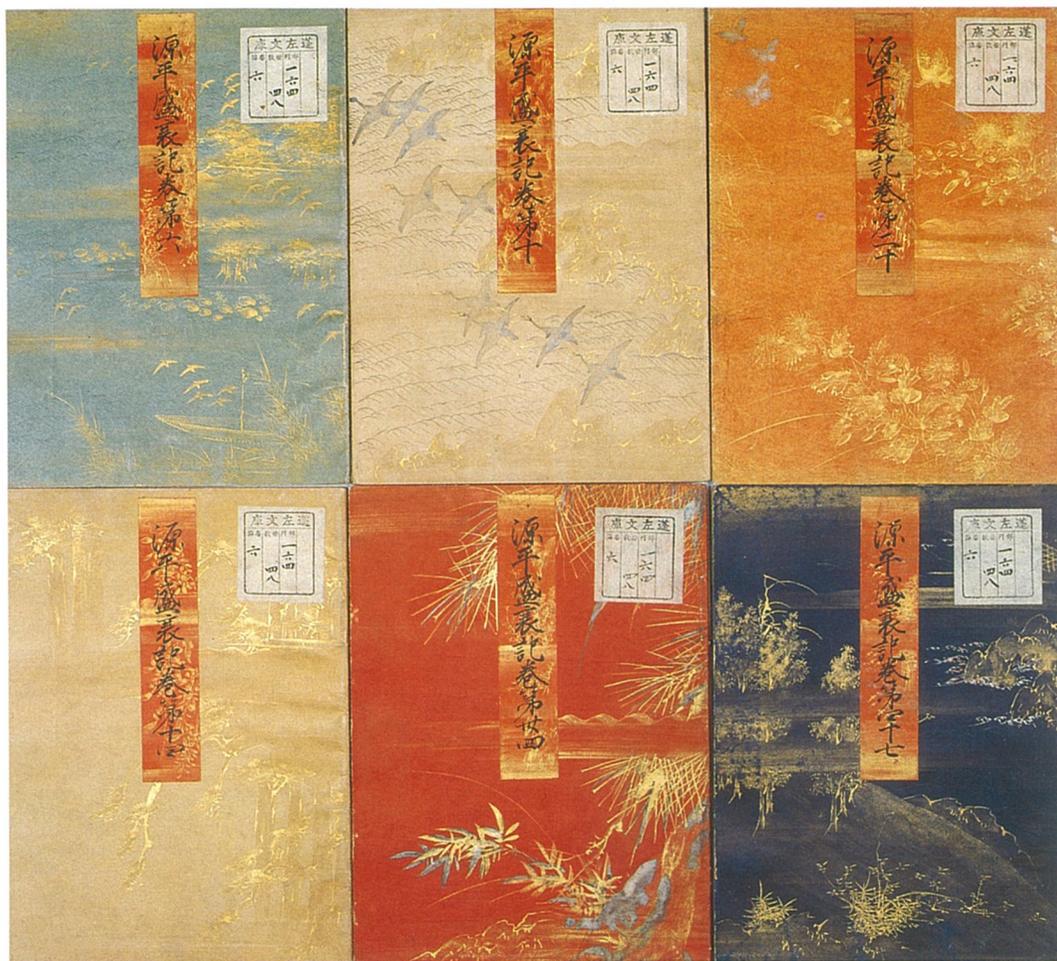


蓬左

HOSA No.39

名古屋市蓬左文庫
Nagoyashi Hōsabunko

1989. 9



源平盛衰記 慶長16年写 48冊 (24.6×18.7cm)

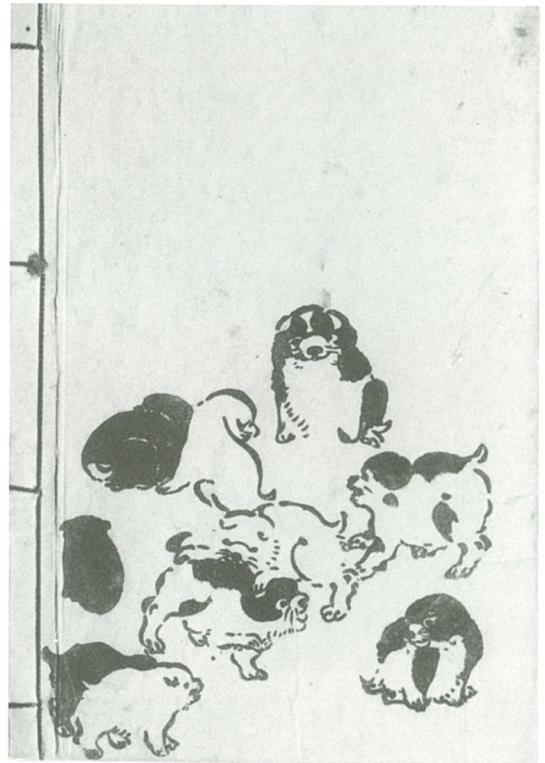
源平の争乱から平家の滅亡まで、源氏と平家の歴史を描いた軍記物語。本書は全巻揃いの写本としては、現存最古のもの。巻末に「此全部一筆終書写功者也。于時慶長16年季冬下旬、玄庵三級（花押）」とある。白、きはだ、紅、鶯、青磁、柑子、紺、山吹、薄茶、鈍など十色以上の色変りの表紙に、48冊同じ物がないといえるほど、金銀泥で様々な山水花鳥・草木類が描かれている。藩政時代からの尾張徳川家の蔵書であるが所蔵の時期、経緯については詳細不明。その華麗な装丁から婚礼調度の一つであったとも考えられる。

書物の内容や、所蔵者の好みを反映し、書物の顔ともいえる表紙ですが、本来は、書物の中味を保護することを目的としたものです。このため表紙は、裏打ちなどによって補強され、古くから渋引き、藍染、きはだ染、朱塗りなど、防水、防霉、防虫、殺菌などの効果のあるものが使用されてきました。しかもこれらは、実用的なだけでなく、各々に美しく趣のある色彩で、書名や題簽の位置・色、綴じ方、綴じ糸の色などによって様々な意匠を生み出す可能性をもっていました。たとえば、15、16世紀の朝鮮王室の出版物に見られる太めの赤色の糸で綴じた空押文様（文様の型を叩いて打ち出したもの）の大版の黄金色の表紙。家康が収集した古記録に用いられた紫の糸で綴じた紺紙の表紙、紺紙や縹色の表紙に記された金銀泥の書名や、武芸や礼法の伝書によく見られる金箔押し題簽など、各々の文化や美意識が反映されているともいえます。

一方、平安時代以降、和歌や物語を中心とした国文学書においては、装飾性に富んだ装丁が重視され、表紙にも、様々な色彩の色紙、雲母びき、金銀の切箔・砂子散らし、雲母摺や蠟箋などの唐紙、金銀泥で山水花鳥風月を描いたものなど、様々な特殊技巧を施した装飾料紙や、さらには豪華な金欄や緞子の布地が使われ、金銀泥の模様入り題簽が用いられるなど多様で華麗な意匠の表紙が作られました。

しかし、何と云っても江戸時代の木版印刷技術の発達と、これに伴う出版文化の隆盛・書物の大衆化によって、こうした表紙の意匠の伝統の上に、自由で個性的な様々な表紙が登場することとなります。それは、絵草紙の表紙に見られる色鮮やかな錦絵の続絵表紙（1編となる数冊の表紙を並べると一枚の続き絵となる）のように、とくに大衆文芸の世界において発揮され、カラー印刷物の氾濫する現代から見ても魅力あふれるものです。

「書物のデザイン」第3回の今回は、古典から江戸の大衆文芸書まで、書物の表紙に注目して、その多様な意匠を御紹介します。



南総里見八犬伝 曲亭馬琴著 文化11～天保13年（1814～42）刊 9輯101冊
（22.8×15.8cm）

犬塚信乃等八犬士が主家の再興に活躍する時代をこえたベストセラー。近世大衆小説の代表作であるとともに、作者馬琴（1767～1848）の生涯をかけた大作である。第1輯から38年間、19回にわたって5、6冊づつ刊行された。表紙は、刊行の時期によって18種あり、どれも、犬をモチーフとしたデザインとなっている。

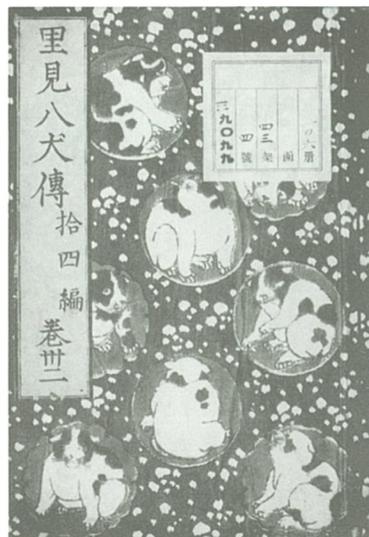
「書物のデザイン～Ⅲ.表紙の意匠～」出品目録

1. 周易 王弼 慶長年間刊	10卷 5冊	21. 黄帝内経素問 江戸中期刊	9卷 7冊
2. 源平盛衰記 慶長年間刊	48卷 48冊	22. 黄帝内経靈枢 江戸中期刊	9卷 8冊
3. 詞林三知集 江戸初期写	1冊	23. 連歌延徳抄 猪苗代兼載 明応5年写	1冊
4. 俊成卿女文 江戸初期写	1冊	24. 懐風藻 江戸初期写	1冊
5. 公方様御成留記 江戸中期写	58冊	25. 出雲国風土記 江戸初期写	1冊
6. 金城温古録 奥村得義編 江戸末期写	66卷 66冊	26. 常心流明鏡之卷 江戸中期写	1冊
7. 青窓紀聞 水野正信 江戸末期写	204冊	27. 新陰流兵法稽古之書 江戸末期写	1冊
8. 倭名類聚鈔 源順 元和年間刊	20卷 10冊	28. 書札三家書 江戸中期写	1冊
9. 宝基本紀 江戸初期写	1冊	29. 書札法式 江戸中期写	1冊
10. 中臣祓註 江戸初期写	1冊	30. 大学衍義補 丘濬 明時代刊	161卷 40冊
11. 保元物語 慶長年間写	2卷 2冊	31. 十七史 毛晋校 崇禎年間～順治13年刊	1594卷 268冊
12. 平治物語 慶長年間写	3卷 3冊	32. 太平広記 李昉等 嘉靖45年刊	510卷 20冊
13. 礼記 鄭玄注 慶長年間刊	20卷 10冊	33. 五倫書 宣宗 正統12年刊	62卷 31冊
14. 東鑑 寛永3年刊	52卷 50冊	34. 文献通考 馬端臨 嘉靖3年刊	348卷 100冊
15. 経国集 滋野貞主編 江戸初期写	6卷 6冊	35. 大学衍義 真德秀 朝鮮李朝時代(金屬活字版)	43卷 13冊
16. 日次記(天曆元年～仁治3年) 二条良基 江戸初期写	230冊	36. 本草原始附雷公炮製 李中立 明時代刊	12卷 8冊
17. 神皇系図 江戸初期写	1冊	37. 詩紀 馮惟訥 万曆年間刊	188卷 65冊
18. 太田和泉守記 太田牛一 慶長12年写	1冊	38. 宗祇短歌 釈宗祇 慶長10年写	1冊
19. 徒然草 吉田兼好 江戸初期写	2冊		
20. 太平聖恵方 王懷隱 永正年間写	100卷 51冊		



南総里見八犬伝 表紙

39.	貞永式目抄 清原宣賢 慶長年間写	2冊	60.	二十一代集 正保4年刊	400卷48冊
40.	和漢合運図 釈門智 江戸初期写	4冊	61.	十三代集 正保4年刊	400卷40冊
41.	和漢朗詠集 藤原公任 室町時代写 (山崎宗鑑筆)	2卷2冊	62.	類題和歌集 後水尾天皇 元禄16年刊	31卷31冊
42.	無名抄 鶴長明 永正13年写	2冊	63.	伊勢參宮名所図会 藤岡月 寛政9年刊	5卷6冊
43.	万水一露 能登永閑 寛文年間刊	54卷62冊	64.	百人一首一夕話 尾崎雅嘉 天保4年刊	9卷9冊
44.	八雲御抄 順德天皇 室町時代写	5卷(卷3乙、6欠)5冊	65.	Beginnellen der Statica. I. R. Schmidt Gravenhage; Amsterdam. 1823-24	2 v.
45.	大和物語 江戸初期写	1冊	66.	Reglement op de exercitien en manoeuvres der Infanterie. nagedrukt Nagasaki, Ansei4 (1857)	3 v.
46.	史記 司馬遷 慶長年間刊	130卷49冊	67.	和蘭内外要法 吉雄常三訳 文政3年刊	8卷8冊
47.	方丈記 鴨長明 慶長年間刊	1冊	68.	帝鑑図説 張居正・呂調陽 江戸初期刊	12卷7冊
48.	昔咄 近松茂矩 元文3年写	7卷7冊	69.	甘露草 江戸末期刊	19卷(卷6・7・11欠)15冊
49.	新和歌類句集 江戸初期写	28冊	70.	北野稿草 江戸末期刊	16卷16冊
50.	類句和歌集 江戸初期写	60冊	71.	観世流改訂謡本 刊	146冊
51.	善隣国宝記 釈周鳳 江戸初期写	1冊	72.	南総里見八犬伝 曲亭馬琴 文政11~天保13年刊	101卷106冊
52.	東鑑 江戸初期写	55卷69冊	73.	新編金瓶梅 曲亭馬琴著 歌川国貞画 天保弘化年間刊	10集20冊
53.	源平盛衰記 慶長16年写	49卷48冊	74.	春色梅児与美 為永春水著 柳川重信画 天保3年刊	4編12冊
54.	空穂物語 江戸初期写	20冊	75.	彦紫田舎源氏 柳亭種彦著 歌川国貞画 文政11~天保13年刊	38編19冊
55.	徒然草 卜部兼好 江戸初期写	6冊	76.	枕琴夢之通路 笠亭仙果著 歌川貞秀画 天保6年刊	3卷3冊
56.	八代集 江戸中期写	140卷14冊			
57.	神祇宝典 徳川義直 正保3年写	10卷10冊			
58.	中臣祓・神書 江戸初期写	4卷			
59.	論語 天明年間写	10卷2卷			



南総里見八犬伝 表紙

7. 続・蓬左文庫三十年

(この文章は、「蓬左第2号」(1980年6月刊)掲載分の再録です。)

蓬左文庫がいよいよお国入りときまり、約6万5千冊にのぼる蔵書の荷造りが始まったのは、昭和25年9月上旬であった。名古屋市からは、社会教育課の職員数名が上京し、きびしい残暑の中を約10日間、書籍の点検や箱詰めなどの作業に従った。3時の休憩時間にも、菓子はおろか、お茶さえも不足がちの時代で、サッカリンを冷水にとかしたものが唯一の甘味であった。

書籍が名古屋に到着し、現在の書庫に収められてからも、その荷解きや再整理には、意外に手間がかかった。無窓式の書庫は、秋口はまだしも、冬ともなれば巨大な冷蔵庫と化する。そこで、たびたび外へ出ては焚火をする。体が温まるとその都度、焚火を消してから、又、書庫へ——という具合であった。書庫の周辺も、荒涼たる焼跡で、今は牡丹などの花壇に変わったあたりも、瓦や石ころが散乱し、雑草の間を、シマヘビなどが出没した。マムシも2度ばかり見かけたことがある。施設の方は、翌26年の初、焼け残った木造の倉庫を改造して、事務室と閲覧室とができたけれども、風通しがよすぎて、夏は涼しかったが、冬は「冷房完備、?」で、オーバー着用のまま、火鉢を抱きながら執務するという状態がつづき、また、事務室・閲覧室と書庫とが別棟のため、雨の日の出納には傘を必要とした。ガス・ストーブが入り、リノリュームが床に敷かれ、通路に屋根が設けられたのは、何年かのちのことである。

さて、昭和34年、兼案の「名古屋叢書」の刊行が開始された。続編を加えて45巻、10カ年にわたる大事業である。このおかげで、当時の職員2名のところ、1名増員されたが、それでも追いつかず、以後「毎日が月曜日」ともいべき時期がたびたび続いた。この間、40年7月東図書館新築が成り、文庫はその2階に同居することになった。ちなみに、この辺り帯6,600㎡の土地は、文庫の敷地として、徳川義親さんから市へ寄付されたものである。ともあれ、文庫も面目一新、明るい近代的な新館の中で、安全かつ能率的な執務が可能となり、ささやかながら、展示室も開設された。

「名古屋叢書」が難航をかきねつつも予定通り終了したあとは、これも待望の総目録の刊行に切りかえ、5カ年を費やして、漢籍・国書・古文書古絵図の各分類目録3巻を世に送り、これと前後して、「名古屋叢書」の総目録と索引3巻を出した。この間「尾州茶屋文書」「尾崎久弥コレクション」「小酒井不木文庫」など合計2万点の寄贈を受け、これらの整理や目録の編集なども併行的に進められ、なお続行中のものもある。

30年の歩みをかえりみると、今からは信じがたいようなことが多かった。温故知新——この機会に、そのいくつかを拾い書きしておくのも、無意味ではないと思う。

織茂三郎(元蓬左文庫調査研究員)



蔵書の荷造り

昭和25年9月、旧蓬左文庫(現徳川黎明会)玄関前。

「蓬左文庫」の看板がみえる。

写真右より、日通職員夫人、日通職員、水野光国(社会教育課文化係兼務主事)、加藤道男(社会教育課文化係長)、大野正義(現在杉山、社会教育課文化係主事補)

杉山氏(旧姓大野)談「名古屋市の職員が、市の宿舎に泊まりこんで、毎日黎明会に通い、暑い中日通職員と一緒に梱包した。紙で梱包して何番から何番と番号をつけ、さらに木箱に入れた。とても重く一人では持てず、運ぶのに10日かかった。」

写真提供 杉山正義氏

整理休館のお知らせ

蓬左文庫では、年末年始の休館に先立ち蔵書点検のため下記のように休館させていただきます。

利用者の皆様には、御迷惑をおかけすることとなりますが、当文庫蔵書の末長い保存と活用のため、皆様の御理解御協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

期間 平成元年12月24日(日)～27日(水)

(なお、年末年始の休館は12月28日(木)～1月4日(木)です。)

▷▷▷ 利用ご案内 ◁◁◁

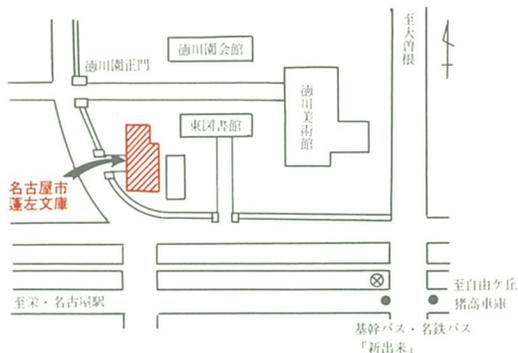
- ▷開館時間 午前9時30分～午後5時
- ▷休館日 毎月曜日・第3金曜日(館内整理日)
- 祝日 (日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)
月曜 〃 月・火休館
- 年末年始(12月28日～1月4日)
- ▷閲覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません
(閲覧料) 普通図書 無料
重要図書 有料(1部350円)
- ▷展示 随時蔵書の一部を展示
(特別展を除き入場無料)
- ▷複写サービス 普通図書のうち、保存上影響のないものについて複写サービスを行います。その他、マイクロフィルムの利用、写真撮影の申請を受け付けますので、ご来庫の上、ご相談下さい。

名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町1001番地

☎(052)935-2173

(名古屋駅から) 市バス(基2)「自由ヶ丘」「猪高車庫」行
名鉄バス「本地ヶ原方面」行
(栄から) 市バス(基2)「引山」「自由ヶ丘」
「猪高車庫」行
「新出来」下車、徒歩4分



「蓬左」第39号 ☆平成元年9月30日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)
☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷株式会社(東区泉2-3-18)